

各務小だより

各務小学校

校 報 3月号

令和5年3月1日



新しいスタートに向けて準備を！

校 長 松原 里佳

日差しが徐々に暖かく感じ、暦の上では「啓蟄（けいちつ）」を迎えます。大地が暖まり、冬眠していた虫が春の訪れを感じ、穴から出てくる頃です。春がすぐそこまで来ていることを実感します。

いよいよ3月に入りました。どの学年も、4月に掲げた学級目標を意識して成長してきました。残りの時間は、進級・進学に向けて、「何をやり切るのか」「どのような力をつけていくのか」を、学級で具体的に決め、取り組んでいきます。「こんなことができるようになった。こんなことを頑張った。」と胸を張って言えるよう、見守っていきます。目標を中途半端にして終わるのではなく、最後までやりきって3月の最後を迎えてほしいと思います。ぎりぎりになって焦ったり、「やっぱりできなかった。」と不完全燃焼で終わったりするのではなく、計画的に取り組む力もつけていきたいものです。現在は「6年生を送る会」に向けて、プレゼントや看板、花アーチを楽しそうに作ったり、発表や合唱合奏の練習をしたりと、感謝の気持ちを伝えようと一生懸命に取り組んでいます。今後は、生活科や総合的な学習の時間で、自分たちの学びを、一つ下の学年に伝える活動を計画している学年もあります。これらは、仲間と力を合わせて作る作品になります。学校での取組をご家庭でも話題にさせていただきますようお願いします。

先日、「入学説明会」で、子育てや子どもとの関わりについて、お話をさせていただきました。

☆子どもは「話を聞いてほしい。褒めてほしい。」と思っている。

「話を聞いている。褒めている。」つもりでも、子どもにとっては、「話を聞いてくれている、褒めてくれている。」と、受けとめられないこともある。それは、「とにかく忙しい。やることがたくさんあって仕方ない。」自分(大人)が一番だったから。「時間のない中で、宿題は見ている。忘れ物しないように気をつけている。」形だけ取り繕っていたから。「とりあえずよかった。じゃあ、次はこれね。」頑張りや喜びの共有がなく、次の目標だけを示していたから。

☆話をゆっくり聞く時間を意図的に作る。

話す中で、頑張りやを認めたり、困っていることを相談したりすることで、「どんなことでも、家の人に話せばいいんだ。自分の話を聞いてくれる大人がいる。」と、子どもの安心につながる。その時間や話から「これでいいんだ。」「次これをやってみよう。」と、自信や目標につながる。

☆話の聞き方を工夫する。

話を聞く時間、話ができる時間の中で、自分の気持ちや考えを自分の言葉で話せるようになる。まず認め共感する。否定しない。先に大人が結論を言うのではなく、子どもに考えさせる。時には選択肢を与え、そう考えた理由を聞く。すぐには考えを話せなくても、積み重ねでできるようになる。

☆子どもの良いところを家族で話し合う。

良いところを子どもに伝え、子どもからも聞いてみる。

子どもたちが自分の頑張りや成長を振り返り、気持ちよく次を迎えられるよう、心に留めていただけると嬉しいです。

